

市民海外レポーター柴田沙希さん（ガーナ）

派遣期間 H27.9～H29.9

【西アフリカ、ガーナではどんな医療が受けられるの？】

西アフリカ、ガーナで理学療法士として活動しています柴田沙希がお伝えします。私はガーナのンサワンという町にある Orthopedic Training Center(義肢装具リハビリセンター)でリハビリテーションをしています。日本では民間病院で働いていましたがガーナに来て様々な環境の違いを感じています。

当施設には医師も看護師もいないため、診断、他院への紹介状、処方箋の作成、傷の処置、簡単な手術の補助等もリハビリの専門家である理学療法士が行っています。装具やサポーターは寄付によって賄われていますが適切な種類やサイズが無いことも多く、無ければ他の病院をあたってくださいと言わざるを得ない状況です。



医療者と患者の立場って？

この国では医療従事者と患者の間に大きな隔たりがあるようです。医師が患者を診療しても何の疾患でどういう状況かどんな治療をするか等医師が告げない事が多くあります。患者もそのような事について聞くことが出来ないそうです。また診療、処置等行った医療従事者に対して医療費とは別にお金を渡すことが常識化しています。時には医療従事者から「いくらください」と要求する場面も見られます。医療従事者と患者の立場の差から患者は適切な情報を得る機会がなく、さらに医療的対応を遅延させているように感じます。

ガーナの病院って？

大きく分けて政府が運営している病院、民間の病院があります(その他教会が運営している病院もあります)。政府の病院と民間の病院では医療費が異なります。勿論治療内容によって異なるため一概には言えませんが時には民間の病院に行くと政府の病院の10倍治療費がかかることもあります。

政府立病院には政府病院、軍病院、県病院、地区病院がありますが規模が大きな病院に行こ

市民海外レポーター柴田沙希さん（ガーナ）

派遣期間 H27.9～H29.9

うとすると遠く、私の住む地域では地区病院に行くことが一般的です。しかし政府立病院では医師不足のため医療助手のような立場の人も診療をする事が出来、設備面も技術面も十分とは言えない状況です。

どんな患者さんがくるの？

私の働く義肢装具センター（以下 OTC）には幼児から高齢者までありとあらゆる疾患を持った人が訪れます。アフリカでは切断が多く当センターにも切断者がたくさん来ます。また小児では抱えている疾患が原因で育児放棄状態に陥ったり、障害を持っている為に家の中に隠されてしまうケースも珍しくありません。当センターにはそのような背景を持った子供も多く入院しています。



保険は利くの？

ガーナでは日本で言うところの国民健康保険の様なものがあります。国の保険を使用することで病院に行った際の検査・治療費や薬代の一部が免除されますが、車いす、眼鏡、杖、義足等を購入する際に保険は利きません。そのためお金の無い人々はこれらを手に入れることが出来なかったり、手に入れるために何年もかけて貯金をする人もいます。

どんな病気があるの？

当センターには日本でも一般的な脳卒中、糖尿病等の病気から日本では一般的でない疾患も多く存在します。例えばハンセン病、ポリオ、結核、髄膜炎等です。